

(2) 成果指標評価表

柱	1 社会環境
分野	A 大気・ばいじん
ビジョン	きれいな空気の中で暮らせるまち

成果指標1 降下ばいじんの量 (t/km<sup>2</sup>・月)

年度	市内平均	北部平均	南部平均
基準	4.4	3.3	5.4
H17	4.6	3.4	5.9
H18	4.8	3.5	6.2
H19	4.8	3.5	6.1
H20	4.7	3.0	5.0
H21	4.2	2.9	5.6
H22	3.8	2.7	4.9
H23	3.8	2.7	4.8
H24	3.9	2.8	4.9
H25	4.1	2.8	5.6
H26	3.8	2.8	4.9
H27	3.5	2.6	4.3
H28	3.9	2.6	5.0

**主な事業**

大気汚染常時監視  
降下ばいじん等調査  
公害防止協定による立入り調査  
及び防止対策の指導

**計画通りに成果が上がっているか**

目標達成  
 順調  
 順調でない

成果指標の分析

平成28年度の降下ばいじん量は市内平均3.9t(北部平均2.9t、南部平均5.0t)で前年度と比べ0.4tの増加となり、北部平均以外は28年度目標値を達成できませんでした。臨海部企業の降下ばいじん対策は進んでいるものの、気象条件などにより増加したものと考えられます。

成果指標2 大気汚染基準値の達成率(%)

年度	達成率
基準	73
H17	75
H18	80
H19	75
H20	80
H21	80
H22	80
H23	63
H24	80
H25	90
H26	80
H27	80
H28	90

**主な事業**

大気汚染常時監視

**計画通りに成果が上がっているか**

目標達成  
 順調  
 順調でない

成果指標の分析

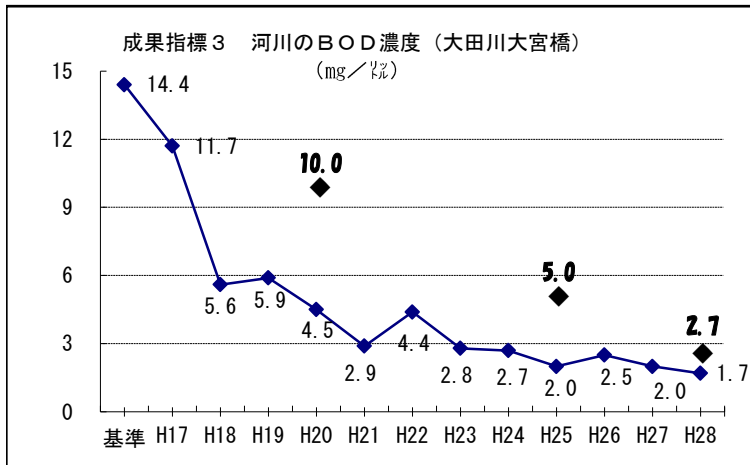
事業所への総量規制、自動車排ガス対策等により、平成28年度は二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質が環境基準を達成したものの、光化学オキシダントは全局で未達成であり、達成率は横ばいです。光化学オキシダントはメカニズムが複雑で、改善が進んでいないことが一因に挙げられます。

成果が向上する余地(可能性)は?  大  中  小

第1次東海市環境基本計画を振り返って

降下ばいじんに代表される大気汚染問題は、事業者による対策が進んでいるものの、対象箇所の多さや発生を防止するための技術に限界があること、また、気象条件に影響される部分も大きく、対策の効果が市民の実感に結びついていない状況です。そのため市と事業者が連携し、効果的な対策を提案し、公害対策の効果を市民がより実感できるようにするとともに、情報提供の仕組みを充実させることが必要です。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち



**主な事業**

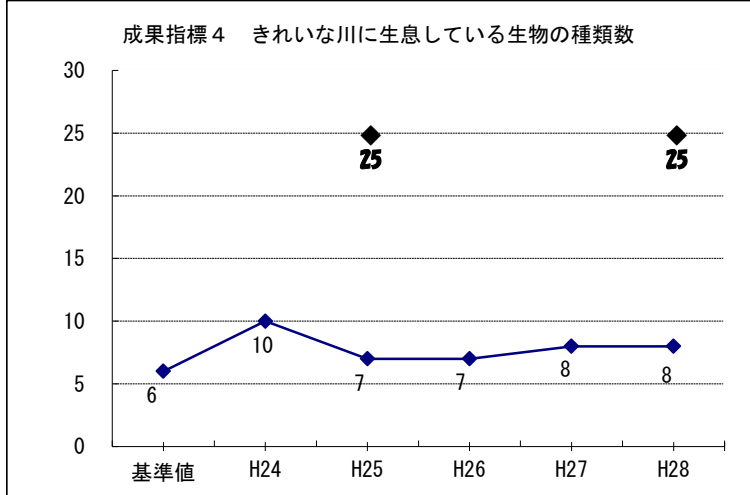
河川の水質調査(8箇所、年4回)  
河川・ため池水質浄化事業

**計画通りに成果が上がっているか**

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

**成果指標の分析**

河川の水質調査は、季節や天候による影響はあるものの、20年度以降は全般的に数値が改善され、28年度の目標値についても達成しています。これは、下水道の整備・普及が進み、生活排水の流入が減少したことが大きな要因と考えられます。



**主な事業**

大田川等生物調査委託  
渡内川・中川クリーン作戦  
河川ため池水質浄化事業

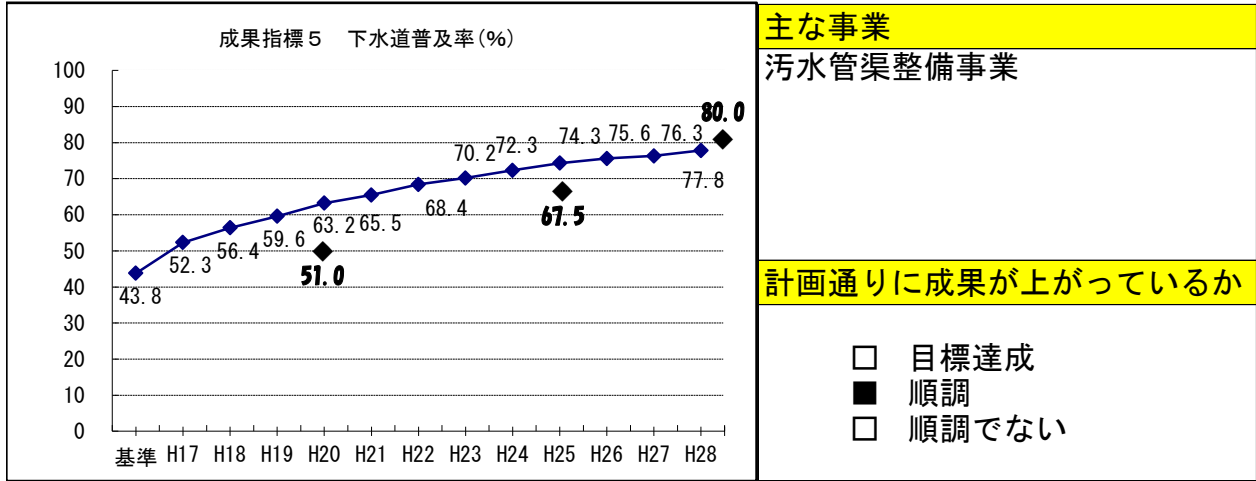
**計画通りに成果が上がっているか**

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

**成果指標の分析**

確認された指標生物は、前年度と変わらず8種類と横ばいだが、目標値と比べると大きな差があります。  
河川の水質は改善傾向にあるものの、水質以外の要因も影響しているものと考えられます。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち



**成果指標の分析**

平成28年度の下水道普及率は前年度に比較し、1.5ポイント増加の77.8%となりました。これは、主に名和町で整備済面積が増加したことによるものと考えられます。しかし、28年度目標値である80%は達成できませんでした。

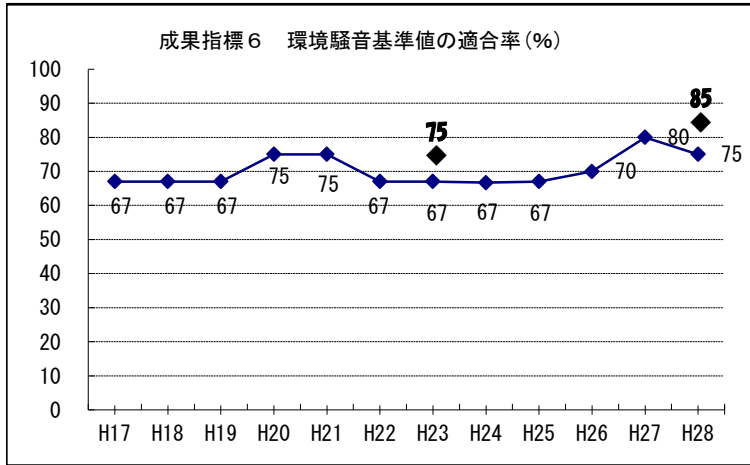
成果が向上する余地(可能性)は？  大  中  小

**第1次東海市環境基本計画を振り返って**

下水道の整備・普及により、河川のBOD濃度は改善が進み、環境基準を達成しています。一方で、ため池のうち生活排水が流入する池ではBOD濃度が高く、富栄養化が進んでいます。

下水道の整備は計画的に進んでいますが、早期の下水道への接続や、未整備区域における生活排水対策の実践など、水質浄化の啓発活動も必要となっています。

柱	1 社会環境
分野	C 騒音・振動
ビジョン	静かでおだやかに暮らせるまち



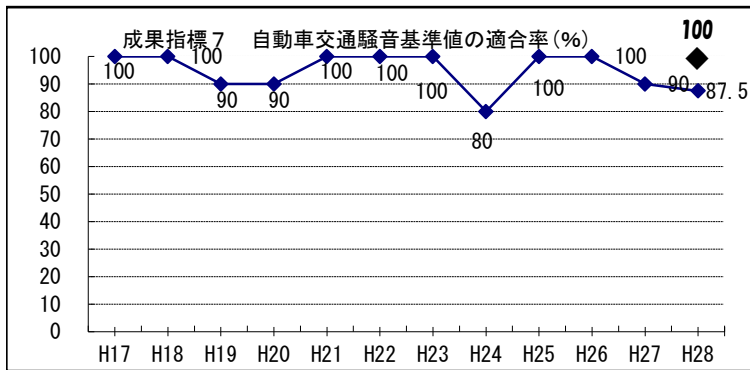
**主な事業**  
環境騒音測定

---

**計画通りに成果が上がっているか**

目標達成  
 順調  
 順調でない

**成果指標の分析**  
測定調査は、名和町2地点、中央町、中ノ池、横須賀町、加木屋町の市内6地点で実施しています。28年度は、昼間の測定のすべての地点で環境基準を達成しました。夜間の測定では、緑陽敬老の家(名和町)、市役所(中央町)、上野公民館(名和町)の3地点が達成できませんでした。



**主な事業**  
自動車騒音測定  
自動車騒音常時監視業務

---

**計画通りに成果が上がっているか**

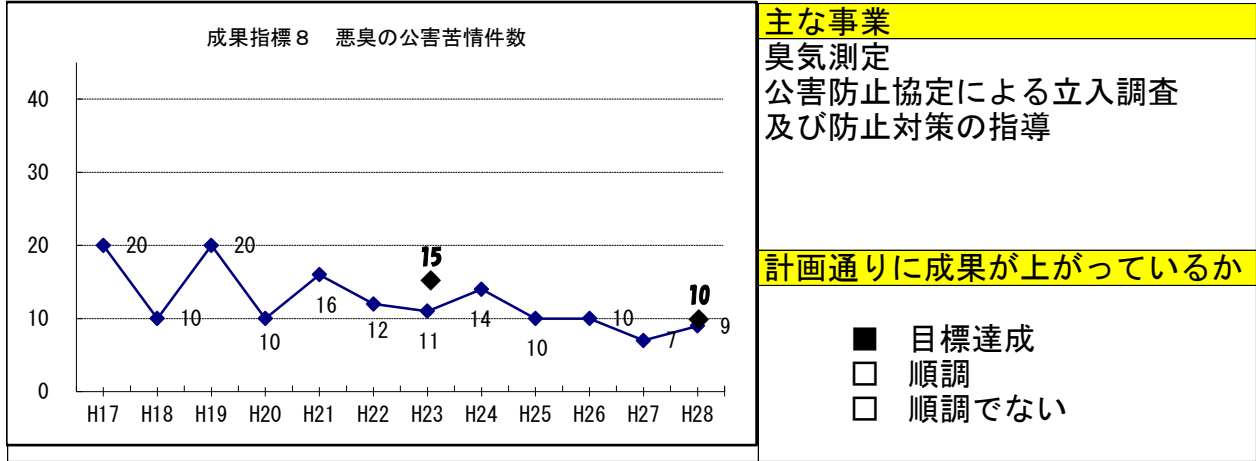
目標達成  
 順調  
 順調でない

**成果指標の分析**  
自動車騒音は、名和町、荒尾町、高横須賀町、加木屋町の市内4地点で昼間、夜間に調査を実施しています。(27年度までは5地点)  
28年度は、消防署北出張所(荒尾町)の昼間で要請限度を1dB(デシベル)超過しましたが、ほぼ横ばいになっています。交通量増加に伴い、騒音測定値が高くなっていると考えられます。

成果が向上する余地(可能性)は?  大  中  小

**第1次東海市環境基本計画を振り返って**  
環境騒音については、交通量の増加により、一部の地域では夜間の環境騒音において環境基準の超過がみられます。  
また、日常生活に伴う近隣騒音も問題化しており、市民への啓発が求められます。

柱	1 社会環境
分野	D 悪臭等
ビジョン	健康で安心して暮らせるまち



**成果指標の分析**

28年度の悪臭の苦情件数は前年度から2件増え、9件となりましたが、28年度目標の10件を達成しました。  
これは企業が発生源対策を継続的に行っている結果によるものと考えられます。

成果が向上する余地（可能性）は？  大  中  小

**第1次東海市環境基本計画を振り返って**

市内の事業者に対し、定期的に悪臭測定を実施しています。また、悪臭に対する苦情件数は長期的にみると新規受理件数は減少傾向にありますが、苦情が継続化するケースも見られます。